

令和3年度

自己評価公表シート

社会福祉法人鳥取こども学園

幼保連携型認定こども園 鳥取みどり園

1 園の教育・保育目標

教育・保育目標 「心身ともに健康で豊かな人間性をもった子ども」の育成

テーマ ～わくわく・どきどき・笑顔がいっぱい～

めざす子ども像 『遊びきる子ども』

- ・明るく元気な子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・仲間とともに遊びを工夫し、豊かに表現する子ども

2 評価の具体的な目標や計画

◆今年度の研究テーマ

「五感を通した学び」

恵まれた自然環境を活かした主体的な学びの実践

○教育の重点

「健康な体づくり」 コロナ禍が続くことにより、体力・運動能力の低下が課題

0歳児…足湯マッサージ・足裏マッサージ

さくらさくらんぼリトミック

グラウンドを使ったマラソン

2・3・4・5歳児…体育教室 3・4・5歳児…サッカー教室

0・1・2歳児…ミュージックケア わらべ歌

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
(1) 園運営	A	<ul style="list-style-type: none">・園の職務内容は明確であり協働できる体制になっているが、日々忙しく、円滑に進めるためのコミュニケーションが不足してしまうこともあった。日々の教育保育に支障をきたさず、しっかりと話し合いができる職員会や連絡会の持ち方や時間帯を検討する必要がある。・ヒヤリハットは次の日の職員の朝会で事案を共有した。

		<p>また、報告書も速やかに記入し、全職員に回覧し共有できていた。職員のリスク管理の意識の高まりに繋がった。</p>
(2) 指導計画	B	<ul style="list-style-type: none"> • 年間の指導計画に於いては、年度途中でも何度も見直し書き直し改定するよう努力した。 • 園内研修会を何度か設けたことが日々の指導に繋がった。 • コロナ禍で個人懇談や保護者とじっくりと話す機会がもてなかったことで指導計画に活かしていく保護者の意向が分かりづらかった。 • 月案の様式を見直したことにより、記入しやすいものとなった。
(3) 保育内容	B	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍で異年齢の交流が持てなかった。来年度も感染が落ち着かない状況にあることが予想される。異年齢交流による子どもの育ちは大きい。なんとか交流できるよう、在り方を検討したい。 • 子どもの興味に沿った遊びができるために、各保育室にある遊具すべてを確認し、各年齢の育ちにあったものに入れ替えたり、定期的に遊具の点検(年齢・月齢に合ったものか)を行ったりする。 • 18 時からの延長保育では、乳児からの異年齢児も集まるので、家庭的な雰囲気でも過ごせるよう環境を整えるようにした。
(4) 食育	B	<ul style="list-style-type: none"> • アレルギー対応に於いては本児が口にするまでの段階で、何人もの目で確認するようにしたことにより、事故もなく無事に終えることができた。 • コロナ禍で給食やおやつ時間は黙食・壁に向かって・一列に並んで食べる毎日であった。食の時間を楽しむ時間とするには難しかった。 • コロナ禍で園児農園で育てた野菜を使ったクッキングは難しかったが、給食室で調理をしてもらい自分たちで育てた物を口にすることができた。
(5) 行事	B	<ul style="list-style-type: none"> • 行事のねらいや計画が実践的な活動になるよう考えたが、個人差や援助が必要な子どもが多くなり、個々に応じたねらいを持つことも必要であったと思われる。 • コロナ禍であったが、年長の祖父母の方を対象にした

		<p>行事を設けることができお孫さんの成長を喜んで頂けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事に於いては子どもの主体性を大切に、楽しいと感じながら練習を進め達成感が味わえるようにした。
(6) 人権	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ひと月に1回の身体測定時には全身のチェックを行ってきたが、毎日の点検は難しく、家庭での怪我や傷を見落としてしまうこともあった。着替えや排泄時に全身をチェックする習慣を付けるようにしたい。 ・家庭での怪我や傷は、発生状況を保護者に確認し、全職員で共有した。
(7) 子育ての支援	B	<ul style="list-style-type: none"> ・流行している感染症は玄関のボードに掲示し、送迎時に保護者に確認していただけた。しかし、欠席の日は確認できないことから、マチコミメールを利用してお知らせすることも検討する。 ・コロナ禍で玄関対応となり、ゆっくりと時間を取って保護者の相談に乗ることは難しかったが、連絡ノートを利用し相談に乗ったり、意見を頂いた時には速やかに対応できるように努めたりした。
(8) 情報	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報には慎重に取り扱い間違いはなかった。 ・子どものことやクラスの出来事については全職員での共有や連携は不十分であった。また、他クラスのことをどこまで共有すべきか難しさを感じた。 ・職員がシフトで勤務している中、シフト終わりの職員に情報が伝わっていないこともあり、全ての職員が共有することの難しさ大変さを感じた。

A	十分達成された。
B	達成されている。
C	取り組まれているが成果が十分ではない。
D	取り組みが不十分である。

4. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	<p>研究主題 『恵まれた自然環境を活かした主体的な学びの実践』</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究主題に沿って、全クラスが研究保育を行い研究会を設け研究テーマを深めるように頑張った一年であった。研究保育に取り組んだことにより、いつも目にしている自然を保育に活かすことの面白さと自然を丁寧に見つめること、保育に活かすことの面白さを知った一年であった。 外部講師を招き、子どもたちは園舎周りの自然を活かした遊びをたのしんだ。自然を活かしたいろいろな遊び方を教わり職員にとっても多くの学びや気づきとなった。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
健康な体づくり	<ul style="list-style-type: none"> さくらさくらんぼリトミックを日々のデイリーの中に位置づけたことにより、体幹が鍛えられ、怪我等も少なくなったように思われる。 年間を通して、グラウンドを使った朝のマラソンを計画していたが継続は難しかった。年間計画に立てた活動である。各クラスが出来る時間を使って実施するよう、あり方の見直しが必要である。
コロナ禍における情報公開のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 認定子ども園は子育ての支援を担うことが役割となっている。令和4年度も保護者の方に園内へ入って頂き子どもの様子をご覧いただくことは難しいと思われる。今年度同様に、ブログを使った情報の提供を行うようにしたい。これにおいては、個人情報の漏洩を避けるために、保護者のみが情報を得られるようにすることも検討したい。 職員はブログに写真等を載せる作業に随分と時間を要している。職員の過重労働とならないよう、指導計画・保育日誌・登降園簿等、日々の事務作業や記録等のICT化を検討したい。